

梅鶯仏教壮年

第14号
2004年
8月7日

本山参拝親睦旅行日程決定

9月24日(金)・25日(土)

《1泊1日》

梅鶯仏社の親睦旅行をかねた本願寺参拝の日程が役員会で決定されました。本願寺ではちようど秋季彼岸会の法要が勤められている期間であります。また国宝・重要文化財であります本願寺書院も特別に拝観させていただきます予定であります。多くの会員皆様の参加を是非お待ちしております。なお、当初に予定していました日程が変更となりましたことを了承願います。

【24日】

15:00

出発(交通手段未定)

本願寺参拝

懇親会

宿泊(聞法会館)

【25日】

15:00

本願寺朝時参拝
本願寺書院拝観
帰着

*なお、費用は2万円程度の予定です。

星とたんぽぽ

青いお空の底ふかく、
海の小石のそのように、
夜のくるまで沈んでる、
昼のお星は眼に見えぬ。



見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。
散ってすがれたたんぽぽんの、
瓦のすきに、だアまって、
春のくるまでかくれてる、
つよいその根は眼にみえぬ。
見えぬけれどもあるんだよ、
見えぬものでもあるんだよ。

金子みすゞ

見えるもの、数えられるもの
だけを頼りにしがちな私達です
が、「見えないものもある」、
「そこに大切なものがある」と
いう金子みすゞさんの叫びが、
大いなる自省をもって心に響き
ます。

親睦参拝旅行の申込み

は、別紙の申込用紙によ
り、8月15日までに
お願い
します。

◎正信偈ー行譜

正信偈のお勤めの仕方には、主なものに「草譜」と「行譜」があり、例会では「草譜」の練習が終わって、「行譜」の練習に入りました。

「行譜」はおとりこし等で勤められ、すでに皆さん上手にお勤めなされますが、おさらいを込めて、「行譜」のお勤めの仕方のポイントを述べます。

- ①最初の出だしは、草譜と同じ「レ」の音です。
- ②草譜は4句目ごとに最後の3文字の音を下げますが、行譜は全て棒読みです。
- ③途中3箇所(中夏日域・・、為衆告命・・、自然即時・・)は声を伸ばすとともに、音程を「ミ」の音に上げます(ちなみに草譜は上げません)。
- ④「善導独明仏正意」からは独特の軽妙な節がきます。少し難しい節ですが、基本的に4句毎の繰り返しですので、しっかりと練習して、軽快にお勤めしてください。
- ⑤さらに12カ所で文字を割って(例)人中Vちゆう↓ち・う)勤めます。本でよく確認してください。



題
材
法
話

○ご法話聞いても
すぐに忘れます

「お寺でお話を聞いても、家へ帰ったらすっかり忘れてしまいます。こんなことでは救われませんね」というようなことを時々聞きまします。そこで、少し考えてみましょう。

この思いの裏側には、どんな思いがあるのでしょうか。それは多分、「お話をしっかりと理解しなければ救われぬ」といふ話の聞いても無駄というふうな思いがあるのではないのでしょうか。

○何を頼りに生きていますか？

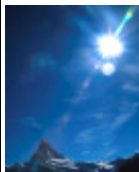
そこでまず、私たちは平
生なにを頼りに、なにを信
じて生活しているで
しょうか。大方は、
自分の目で見る、耳で
聞き、自分の頭で考
えて納得したことを



中心に頼りにしているのではないでしようか。
・「見たことも聞いたこともないものは、信じられない」というのが一般的ですし、また他人を頼りとするときも、「この人ならこれくらいのこととはしてくれるはずだ」といった具合に自分の計算で信じていることが多いのです。
これらは全て自分の理屈の世界なのです。
ですが、自分の頭で考えた理屈ほど頼りにならないものはなく、「当てが外れた」。だまされた」と、場合によっては争いのもとになることもあります。

○本当に頼りになるものは？

ところ、自分が、私達の世界に頼りになるものもあります。それは、「思いやり」とか「まごころ」、あるいは「誠意」と呼ばれるもので「誠意」「真心」や「誠意」を、自分の方から堂々と言うような人



には、ちよつと首を傾けた
くなりますが、この「思い
やり」や「まごころ」「誠
意」というものは、受け取
る側が感じるものであり、
相手がこの私に指し向けて
下さるこのころを、理屈抜き
に感じるころなのです。

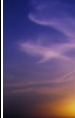
○子を思う親のこころ

「思いやり」は、友達同士にも、夫婦の間でもありますが、もつとも代表されるのが「親が子に差し向けるまごころ」でしょう。

親は子に対し無条件にまごころを注ぎます。子はそれを分別や計算を抜きにして受け入れます。全く理屈抜きの世界です。この私達の理屈を超えた世界にこそ本当の真実の世界があるのではないのでしょうか。

○思い上がりのころ

ところ、こういったところを素直に「有難い」と気がつかないのも私達なのです。たかが知れた私の頭で納得がいかないと、そのまごころさえ



なかなか素直に受け入れられない。これが凡夫なので
 す。実は、「お話をしつか
 り理解しなければ救われな
 い」という思いも、阿弥陀
 さんを頼りにしているの
 はなく、自分自身を頼りに
 している世界なのです。
 自分自身が納得しなければ、
 阿弥陀さんを信用する
 ことはできないという大麥
 に思ひ上がった自分がいる
 世界なのです。
 親鸞聖人は正信偈で、

邪見驕慢惡衆生
 信樂受持甚以難
 難中之難無過斯
 一南無阿彌陀仏の
 えは おごり・たかぶり・
 よこしまのは かるう身に
 て 信ぜんに 難きなかに
 も なおかたし」と、思い
 上がりの心が最も教えを
 聞き難くしているのだと述
 べて悲しんでおられます。
 よくよくこころえたいこと
 だと思ひます。

平成 16 年 7 月 25 日

例會
次号
に住
につ
づく
話より

